

浮棧橋の整備による水上バスの復活がまちおこしにつながる

なごや
file17 **名古屋港**

対象施設 堀川地区浮さん橋

供用 平成8年（宮の渡）、平成9年（白鳥）、平成13年（納屋橋）

堀川地区における浮さん橋の整備により、都心部の納屋橋地区、国際会議場及び白鳥庭園のある白鳥地区、旧東海道「七里の渡し」の宮の渡し地区、名古屋港の玄関口であるガーデンふ頭を結び、堀川を利用した海上旅客ネットワークを「水上バス」として創出。

浮さん橋の整備以降、利用者はどんどん増えており、将来的には名古屋城から中川運河まで延ばす計画。水辺環境への関心の高まりを促し、まちづくりへとつながる効果に期待。



●利用状況

	H12年度		H13年度		H14年度		H15年度	
	隻数	人数	隻数	人数	隻数	人数	隻数	人数
宮の渡	589	15,113	562	16,124	434	13,489	304	9,166
白鳥	4	134	9	302	25	710	20	476
納屋橋	-	-	13	385	276	7,632	214	5,931
合計	593	15,247	584	16,761	735	21,831	538	15,573

第2部
個別港湾事例

●宮の渡



●納屋橋

